

スカパーJSATグループ 2020年度上半期番組審議会

(スカパーJSAT 第34回、スカパー・エンターテイメント第27回)

開催年月日：2020年9月25日(金)

開催方式：書面開催

新型コロナウイルス感染拡大防止及び番組審議会参加者の安全確保の観点から、集合しての開催をとりやめ
審議会資料を事前送付し審議委員のご意見を頂戴する書面開催の形式で実施した。

出席者

(審議委員)

委員数：7名

出席委員数：7名

審議委員長：高畑 文雄

委員：崔 洋一

委員：二宮 清純

委員：山本 浩二

委員：草野 満代

委員：田中 里沙

委員：安田 洋祐

(スカパーJSATグループ)

高田 真治：スカパーJSAT(株) 代表取締役 執行役員会長

米倉 英一：スカパーJSAT(株) 代表取締役 執行役員社長

小川 正人：スカパーJSAT(株) 取締役 執行役員専務 メディア事業部門長

手塚 久：スカパーJSAT(株) 執行役員 メディア事業部門長代行

奥永 孝仁：(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

(事務局)

加藤 健：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ推進部長

長田 里子：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 コンテンツ推進部

(報告者)

清野 正一郎：スカパーJSAT(株) 経営企画部門 経営企画部 兼 宇宙インタメPJ リーダー

川原崎 紘史：スカパーJSAT(株) メディア事業部門 メディア事業本部 第2ジャンル事業部

奥永 孝仁：(株)スカパー・エンターテイメント 代表取締役社長

<番組審議>

審議番組 (1) 『KIBO 宇宙放送局 開局特番～WE ARE KIBO CREW～』

報告者：清野 正一郎

◆放送概要

放送日：2020年8月12日（水）19:45～21:45 生放送<無料放送>

放送チャンネル：BSスカパー！

オンデマンド：KIBO 公式 YouTube、スカパー！オンデマンド

◆企画趣旨

「宇宙の民主化」「誰もが触れる宇宙を」をテーマに、2019年11月、バスキュール・JAXA・スカパーJSATの3社で「宇宙メディア事業」構想をリリース。国際宇宙ステーションの日本実験棟「きぼう」を舞台に KIBO 宇宙放送局（船内スタジオ）はバスキュールが構築し、スカパーJSATは2022年秋以降に宇宙空間から見たい景色を自由に視聴・撮影できる船外スタジオを構築する構想を発表。

本番組は実証実験番組としてバスキュールに協賛する形で、BSスカパー！にて放送。PR や一連の活動を通して、一般的にはあまり知られていない「スカパー＝宇宙企業」というブランディングに寄与することを目的とする。

◆番組概要

地上400km、秒速8kmの速さで地球を周回している国際宇宙ステーション(ISS)。そんな地球から離れた場所に、今宵ひとつのスタジオが開設される。その名は「KIBO 宇宙スタジオ」。宇宙空間に設置された世界でただひとつのディスプレイを介して、世界初の宇宙との双方向ライブ配信を実現させる。地上のクルーを務めるのは中村倫也、菅田将暉。宇宙の壮大さ、謎、そして未来を語り合い、SNSとも連動し、リアルタイムの声を反映させながら、視聴者とともに番組を作り上げる。あなたのつぶやいたメッセージが宇宙まで届いてしまうかも！？その日はペルセウス座流星群が最も地球に降り注ぐロマンチックな夜。クルーの2人と一緒に、星空の中継を堪能しつつ、一緒に外に飛び出し、同じ空、そして運が良ければ同じ流れ星と一緒に眺める貴重な時間も。みんなの“KIBO”が叶う世界を1日でも早くとりもどすために。日の入りから日の出まで、地球をぐるりと一周まわりながら、宇宙を視聴者みんなの“KIBO”でつなぎます。

■メインクルー：中村倫也、菅田将暉

■番組進行：田中みな実

■出演者：土屋伸之(ナイツ)、山崎直子(元 JAXA 宇宙飛行士)、小林うてな、村木風海

■音楽協力：RADWIMPS

■ステーション ID：辻川幸一郎、Cornelius

◆審議委員からのご意見

①宇宙エンタメPJという取り組みについて

- ・多くの人は宇宙に興味があり、宇宙ステーションからの各種映像（対地球、対宇宙）に対して時間の経過を忘れて没頭するだろう。
- ・宇宙ビジネスを主力事業のひとつとするスカパーJSATにとって、宇宙エンタメは今後も促進すべきプロジェクトだろう。子供たちに興味を持ってもらうために手探りの挑戦が続くと思われるが継続してもらいたい。
- ・異業種、スポンサーも参画しやすいので、この核をどんどん大きくしてほしい。

- ・「宇宙」に力を入れている国々との「協同」が取り敢えずの課題だろう。
- ・プロジェクトが発展していった先のビジョンをビジュアライズされた形で分かりやすく示してほしい。本プロジェクト自体は未来があるものなので、心から応援したい。

②本特番放送について

- ・中村倫也さん、菅田将暉さんとともに、そのすごさを視聴者も体感していくという演出がよかった。エンタメに寄りすぎることなく、共同作業の3社が自分の領域だけで勝負していない故に、新しい形のプログラムになっていて本当に面白かった。これまでは、宇宙飛行士という特別な人の視点からの地球だったが、初めて「自分事」として、それぞれの「KIBO」をかなえるために平和で美しい地球があること、守っていくことが大切だと実感した。
- ・小学生や65歳過ぎの高齢者が観ていても理解できるレベル設定はリーズナブル。
- ・全体的には緩い雰囲気で見ることができたものの、プロジェクトの全容やもっと細かい知識まで提供してほしいと思ったのが正直なところ。トーク自体は緩くても開局宣言はキッチリするなど、もう少しメリハリをつけてもらいたかった。人気俳優を入り口にして視聴者を番組に引きつけるという目的は分かる一方で、宇宙やプロジェクト自体への関心をもっと誘うこともできたように感じた。
- ・地上で撮影した映像を宇宙ステーションのモニタに映し出し、宇宙ステーションの風景とモニタを合体させたカメラ映像を地上に送り返す単純なものであり、エンターテインメント性を狙ったものと感じざるを得なかった。
- ・国際宇宙ステーションから見た日の出の映像には感動しました。将来的には、高性能で広い範囲を撮影可能な船外カメラと高速回線を設置するという計画ですので、素晴らしい地球と宇宙の映像を鑑賞できることになると思います。大変楽しみです。

③関連プロモーションについて

- ・事前の関連記事はよく目にしていて、「なにか凄いことをしようとしている」という空気は伝わってきた。ただ、どれだけ読んでもプロジェクトの全容がしっかり把握できなかったのもう少し噛み砕いて端的に説明できていればさらに良かったと思う。
- ・リリースが出ていたが、事前の告知が十分だったかは疑問。しかしながら、10代、20代の若い世代はSNSなどで盛り上がっていて、認知度が高かった。番組の対象は、幅広いところなので、本プロジェクトと番組の連動性をわかりやすく具体的に告知紹介していくと良いのではないかな。
- ・スカパーがプロジェクトにどう関わっていくのかも、もっと詳しく説明してもよかったのではないかな。
- ・はじまるまで「何をするのか」がわかりづらかった。1回目を経て今後はより具体的な情報発信、また事前イベントなどもあっていいのではないかな。
- ・「宇宙と子供たち」をつなげたいなら、逆説めくが、専門人以外、宇宙についてほとんど学んでこなかった大人たちに向けたリカレント教育も必要だろう。宇宙を学者や研究者から解放し、“宇宙酒場”や“宇宙バー”のようなものがあれば明日にでも行きたい。
- ・宇宙ステーションに関連する将来的な番組に対しては、エンターテインメント性に加えて、地球と宇宙の神秘への挑戦的かつ科学的なスカパー独自のプロモーションがあるべきではないかと思った。

④その他、今後へのアドバイスなど

- ・宇宙イノベーションパートナーシップが作り出す価値、エンタメに宇宙が解放されたこの日から、フェーズ1、フェーズ2とどのような展開になって行くのかを、さらに共有してもらえると良い。次回はどのようなコンセプトで放送されるのが楽しみ。
- ・プロジェクトについては大いに期待している。例えば番組内の村木さんの箇所のように、菅田将暉さんが全国の若き

科学者たちとプロジェクトに関連してやりたい計画をどんどん考えていくなど、プロジェクトの具体的な内容や展望を分かりやすく伝えつつ、未来を見据えた継続的な企画を期待したい。

- ・ぜひ第 2 弾をやっていただきたい。アニメとのコラボで宇宙キャスターからの呼びかけでの双方向なども良いのでは。第 2 弾はエンタメ要素の比重を大きくしてほしい。
- ・NASA・JAXA の映像をどう「番組的」に活用していくのか。例えば宇宙から「Google Map」との連携も興味深いのではないかな。
- ・本取り組みには幾多の技術的なリスクや事業リスクがあるが、これらをどう乗り越えていくか。今後の取り組みに期待したい。

➡今回の実証実験番組では宇宙を身近に感じてもらうための企画・演出を試行錯誤いたしました。たくさんの方の貴重なご意見をいただきありがとうございました。今後も新たな事業を生み出すべく、また宇宙を題材とした新たなコンテンツ制作など、弊社の「宇宙 = スカパー」というブランディング確立の一旦を担う存在として、宇宙エンタメ PJ の活動を行ってまいります。

また「宇宙メディア事業」構想の推進においては、積み上げていかなければいけない多岐にわたる経験値や、越えなければならないハードルが多く存在することは十分認識したうえで、宇宙において実業を行う当社として関係各所の協力もいただきながら果敢にチャンレンジしてまいります。

審議番組（2）『Hello!Project presents…「ソロフェス！」舞台裏密着特番』

報告者：川原崎 紘史

◆放送概要

放送日時：2020年7月20日（月） 20：00～21：00

放送チャンネル：BSスカパー！

オンデマンド：スカパー！オンデマンド

◆番組概要

モーニング娘。'20、アンジュルム、Juice=Juice、つばきファクトリー、BEYOOOOONDS、ハロー!プロジェクト所属アーティストたちが一堂に会して、MVPのみに与えられる冠番組を懸けたソロパフォーマンス企画、その名も【Hello!Project presents…「ソロフェス！」】そんなソロパフォーマンスに挑んだ、ハロプロ総勢52名のメンバーたちの舞台裏に迫るインタビュー番組。

コロナ禍でイベントやコンサートが続々中止となった彼女たちにとって、約3か月ぶりのパフォーマンスの舞台。「今、できること」として、無観客の中、グループではなく、ソロで歌唱したメンバーそれぞれの気持ちを掘り下げます。

◆出演者

モーニング娘。'20、アンジュルム、Juice=Juice、つばきファクトリー、BEYOOOOONDS 総勢52名
※本番組は「CS テレ朝チャンネル1・スカパー！オンデマンド」で放送配信された下記関連コンテンツと連動した企画です。

▼7月4日（土）14:00～19：00

Hello!Project presents…「ソロフェス！」

▼8月2日（日）17:30～19：00

Hello!Project presents…「ソロフェス！」 舞台裏密着特番【完全版】

※BSスカパー！では放送されなかった舞台裏の未公開映像30分を加えた番組

◆審議委員会からのご意見

①コロナ影響下での本企画について

- ・ファンにはたまらないだろうが、如何に「コロナ」であってもお手軽すぎる。企画倒れの感あり。
- ・新型コロナウイルス感染を契機に、ハロプロ所属メンバー一人一人のソロ歌唱を提供し、個人を紹介するというコンテンツに着目した点に興味を覚えます。メンバー一人一人の魅力を引き出し、ファンに豊富な情報を与えたという点は評価できます。しかしながら、PCR検査などの実施を含め、感染防止予防が十分達成できているという前提で、無観客であるならば、グループとしてのパフォーマンスも提供できると思います。ソロ+グループのパフォーマンスが提供されれば、なお一層素晴らしい企画になったような気がします。
- ・“こんなやり方があったな”と思わせられるタイムリーな企画。舞台裏にも密着するなどマニアにはたまらない内容だった

はずだ。

- ・今の大変な時期にハロプロファンにとっては今までにない企画で喜んでいるのでは！
- ・スカパーならではの長時間編成、参加メンバーたちが真剣に取り組んでいる熱さ、実際にライブやイベントに行けないファンの気持ちに寄り添っている点など、コロナ影響下のスカパー企画としては理想的ではないだろうか。
- ・今回、CSテレ朝チャンネル1とタッグを組み、連動したコンテンツ編成を実施したとの記載があります。契約増の実績から、米倉社長様のご挨拶にもありましたように、番組供給事業者チャンネルへの加入促進を促したという事実は大きく評価できます。

②本特番放送について

- ・与えられた時間に最高のパフォーマンスを目指し、奮闘する一人ひとりの姿勢が、ファンにも勇気を与えたと思う。本音インタビューから全員に共通するキーワードは「緊張」だったが、ファンへの感謝とともに、成長に向けて挑戦する姿は、コロナ禍の空気を明るく、活力あるものにしたと感じる。練習中の風景では、スマホで自分の動きを何度もチェックし、研鑽を重ねる姿が印象的だった。
- ・自分のことをより深く知ってもらい、という思いをベースに、自分の特技や個性について考え、様々なパフォーマンスを工夫してみせる真剣勝負が爽やかだった。「先輩」のナレーションが各人の特長を後方支援する感じで、視聴の補足になったし、ファンにとっても嬉しいことだったのではないかな。
- ・“密着”とタイトルにあったのでドキュメンタリーなのかな？と思ったのですが、その要素があまり感じられなかった。メンバーファイルとしては魅力的でしたが、このコロナの中で揺れた心とか、ネガティブになりそうな自分をどう前向きに変えていったのか、とか、ファンにもファン以外の人達に共感してもらえるような工夫があってもいいのかなと感じた。
- ・ハロプロのファンにとっては、素晴らしい内容であったと判断されます。
- ・あくまでもハロプロファンや本放送を見た人向けの番組編成なので、それ以外の人にとっては分からない部分が多い。しかし、変に欲を出してコアなファン以外をターゲットに「しなかった」のは大正解だと感じた。コロナ禍においてフラストレーションが溜まっているメンバーとファンとの繋がりに狙い打ちしている以上、ファン目線を貫く姿勢は重要。ファンにとっては大満足だったのではないかな。
- ・バックステージの様子が見られると思っていたがそれは無く、少なくともインタビューカットは、左右の横位置カメラでプロフィールUPを見たかった。各々のキャラクター、ステータス、エンターテイナーとしての「力」を「美しく」「楽しく」伝える方法は研究すべきである。
- ・ハロプロに詳しくないのでファン目線にはなれなかったが、ソロフェスに賭けるメンバーの意気込みはしっかりと伝わった。インタビューも自然体で、彼女たちの本心が視聴者に伝わったのではないかな。これならば、ファンがかなり盛り上がっただろうと想像できた。

③ファンマーケティング観点における本施策について

- ・実際に会いに行けない、ライブも観られないという「できない」ばかりの状況下において、ファンが求めるものを最大限に引き出した企画だといえるだろう。SNSの活用や歌唱順の抽選などで事前からどんどん盛り上げ、祭り気分を演出していったのも見事。地上波と違い、ニッチではあるが熱心なコア層に訴求できる強みを生かすことができた。
- ・若年層にアプローチする上では、やってみる価値のある実験だと考える。ただしネット動画には似たような企画も散見されるため、差別化と特別（オンリーワン）化が必要だろう。
- ・しばし試行錯誤だろうが、断固継続すべし。
- ・スカパーオンデマンドの利用促進を図るためにも、このような企画を今後も継続すべきと考えます。
- ・ソロフェス5時間を見た人向けの企画とのことで、52人のインタビューとパフォーマンスをまとめた本番組は、期待を持って視聴されたと想像する。推しのアーティスト以外に興味がない人もいると思うし、グループ全体のパフォーマンスに比

べると見応え感に異なる基軸が入るが、表現者としての必死のチャレンジは伝わったと思う。加入の数値目標をどのように設定し、検証して行くかは難しいが、連携番組の放送タイミングも効いてくると思う。

・結果を見ると過去最高の数字を出しているわけで成功といえると思う。

・今回のハロプロ番組を視聴するためにはテレ朝チャンネルの視聴料と基本料のみが必要になるということで展開したため、契約視聴の観点から、ハロプロ関連コンテンツの放送は今後ともテレ朝チャンネルとタッグを組み続けることが重要であると思われます。

➡たくさんの貴重なご意見をいただきありがとうございました。今回は、ハロー！プロジェクトファンの皆様の心に響くことに重きを置き、慎重に番組を制作いたしました。コロナ禍における番組制作、エンターテインメントの一つの形を実現出来たと考えております。今後、頂いたご意見を参考に、アイドルジャンルだけでなく、様々なジャンルにおける当社グループならではの長を生かしたファンマーケティングを試行錯誤しながら進めてまいります。

<報告事項>

スカパー・エンターテインメントの番組審議と今後の展開について

報告者：奥永 孝仁

<報告内容>

（株）スカパー・エンターテインメントでは、基幹放送事業者としてまた一般放送事業者として計 159 チャンネルの運営をしており、2020 年 6 月よりプレミアムサービスで人気の韓流チャンネル「KNTV」について、110 度 CS 上のチャンネル「スカチャン 1」の一部を利用する形でスカパー！サービスでの放送も開始しました。

また、毎月考査委員会を開催し番組内容のチェックを行うとともに、SJC と連携し放送倫理に関する事案の発生への対応判断基準を整備し事業者への周知を開始しております。

以上